

浅茅野小学校道德教育研究協議会の記録

開催日：令和元年12月13日(金)

開催場所：猿払村立浅茅野小学校

公開授業後の研究協議では、2つの柱(①道德科授業の流れ ②複式の授業の組み合わせ)について討議した。

1 グループ討議後の発表内容について

Aグループ:

- ・ わたりずらしのための工夫が様々なところで行われていてよかった。
- ・ 他校の意見を使って子どもの意見を広げていたところがよかった。
- ・ わたりずらしの待ちの時間、例えばトラブルが発生したときに道德の方が手が離せないような時は難しいと感じる。
- ・ 高学年の授業であらすじだけでは理解できない児童もいる可能性がある。
- ・ 自分以外のことで考えさせることで道德の深みが増すのではないか。
- ・ まとめを大きい模造紙に書き込むワークシートでもよかったのではないか。

Bグループ

- ・ 授業作りに関して軽重をつけて、違う教材で行っていたのがすごかった。
- ・ 授業のテンポがよかった。
- ・ マッピングでまとめていたり、他校と交流したりすることはよかった。
- ・ 授業の形態に関しては、道德×道德の方がよいと感じた。
- ・ 高学年では同じ教材にして授業をした方がよかったのではないか。

Cグループ

- ・ 道德×他教科との組み合わせは、他教科の方の書写に見通しをもたせていた。
- ・ 教材に関しては黙読をさせ、その後に範読していたのがよかった。
- ・ あらすじのみの紹介にしていたのが時間短縮になったのではと思った。
- ・ マッピングもよかったと思う。
- ・ 今まで学習した資料とかを使ってもよかったと思う。
- ・ 他校の児童の意見で考えの広がりを深めるのはとてもよかったと思うが、一人一人の意見を大事にするのも大切ではないか。

Dグループ

- ・ 導入でのアンケートやマッピングを使っていてよかった。
- ・ 他校の児童の意見交流がよかった。
- ・ 去年の自分の考えと比較するのもよいかと思う。
- ・ 中学年と高学年のまとめが似ていたように思う。価値付けの内容が違うため、まとめが違う方がよかった。
- ・ わたりずらしの待ちの時間があること。
- ・ AB 年度に戻れたらよいと思う。

Eグループ

- ・ アンケートをどちらの学級も最初に提示していたのが有効だったと思う。
- ・ ワークシートの中身が練られていた。
- ・ 他校の意見があるのはいろいろな考えに触れられるため、よいと思った。
- ・ 導入とまとめを一緒にやるのはお互いの意見を知ることができる有効な場だと思った。
- ・ 複式授業の待っている時間は自分の考えを整理できる時間にもなり得るのではないかなと思う。
- ・ 中身がねられているワークシートを毎回作るのは大変ではないか
- ・ 指導の内容にずれ(例えば親切の内容の違い)がある場合は、導入とまとめを一緒にするのは難しいのではないかな。

2 助言者より

◎ 道徳の授業づくりについて

- ・ 宗谷管内の小学校で複式の道徳科授業について考えてもらう機会としている。
- ・ 様々な選択肢をもち、ねらいに最適なものを選んで授業を行ってほしい。そして、今回学んだことを自分のものにするだけでなく、学校に帰って広めてもらいたい。

(1) 明確な指導観(3つの指導観)

- ① 指導案の児童観については、内容項目についてどういう実態なのかを書くこととなる。
- ② 道徳教育は種まきである。今回だけで成長できるわけではなく、いつ花が咲くかはわからない。
- ③ 指導観に関しては、型に合わせてはいけない。自分の学校の児童の実態と内容に関して変えていくことが必要であり、学年に合わせた、発達段階に即した指導が必要である。
- ④ 授業者の価値観については授業者がどこまで内容の価値項目を考えられるかが重要である。
- ⑤ 「親切はしたいけど、出来ない」というゴールの差が4年生と高学年で違いがあってもよかったと思う。

(2) 複式学級における道徳科授業について

- ① 教科の指導は各学年の教科書を使用することが基本となる。道徳科も同様である。
- ② 他教科と組み合わせる場合、道徳科と作業的な内容を組み合わせ、道徳科のみに指導を集中させるということは避けなければならない。必ずどの教科にも指導の目標がある。片方をないがしろにせず、指導の目標をもって授業を行うこと。
- ③ 人数が少ないため、他校との連携が必要であること。
- ④ 意図を持って、教育課程を編成すること。

(3) 道徳科の目標にそった授業づくりについて

- ① 道徳的諸価値がベースにあることを忘れずに、授業づくりを行うこと。
- ② 教師自身が授業を振り返って考えることが大切である。